

極東開発工業

適用範囲		モデル名		PH11-50	PH65-18	PH65-19	PH65 (A) -19A (B)
		主仕様	吸吐弁形式	—	—	—	—
			最大吐出量	m ³ /h	55	65(55)	65(55)
			最大吐出圧力	MPa	2.0	1.8(2.2)	1.8(2.2)
		7-1最大地上高		m	16	18	19
		適用号機		85P000001～92P*****	91P000001～99P*****	99P000001～99P*****	99P050001～
区分	検査箇所	検査項目(条件)	単位	検査基準値			
作業装置	圧送	ポンプ本体	ピストンストローク回数	回/min	—	—	—
			ロータ回転数	回/min	40±1	35±1	35±1
			(油圧ポンプ回転数) (エンジン回転数) (作動油温度)	(min ⁻¹) (min ⁻¹) (℃)	(1900 ⁺⁰ ₋₅₀) (1850 ⁺⁰ ₋₅₀) (50±10)	(1800 ⁺⁰ ₋₅₀) (1820 ⁺⁰ ₋₅₀) (50±10)	(1530 ⁺⁰ ₋₅₀) (1860 ⁺⁰ ₋₅₀) (50±10)
	かくはん装置		回転速度 チェーンのたわみ	min ⁻¹ mm	28±3 20・チェーン中央	21±3 20・チェーン中央	21±3 20・チェーン中央
			(油圧ポンプ回転数) (エンジン回転数) (作動油温度)	(min ⁻¹) (min ⁻¹) (℃)	(1900 ⁺⁰ ₋₅₀) (1850 ⁺⁰ ₋₅₀) (50±10)	(1800 ⁺⁰ ₋₅₀) (1820 ⁺⁰ ₋₅₀) (50±10)	(1530 ⁺⁰ ₋₅₀) (1860 ⁺⁰ ₋₅₀) (50±10)
			圧力設定値 (設定値到達時間)	MPa (min)	0.083 (10分以内)	0.083 (10分以内)	0.083 (10分以内)
	真空ポンプ		圧力降下許容値 (保持時間)	MPa (min)	0.007 (60)	0.007 (60)	0.007 (60)
			Vベルトのたわみ	mm	15～20・ベ [°] 外中央	＜電動モータ駆動＞	＜電動モータ駆動＞
	産業装置	シリンダ 自然降下量	ブーム (1) シリンダ	mm	0.5 以下	0.5 以下	0.5 以下
			ブーム (2) シリンダ	mm	0.5 以下	0.5 以下	0.5 以下
			ブーム (3) シリンダ	mm	0.5 以下	0.5 以下	0.5 以下
			ブーム (4) シリンダ	mm	—	—	0.5 以下
			ブーム (5) シリンダ	mm	—	—	—
			(測定時間) (作動計測条件) (作業装置姿勢)	(min) [図面No.]	(10) [図 No. 1]	(10) [図 No. 1]	(10) [図 No. 1]
	☆ブームシリンダ 作動時間		ブーム (1) 伸び	sec	35±10	45±10	55±10
			ブーム (1) 縮み	sec	30±10	60±10	55±10
			ブーム (2) 伸び	sec	40±10	45±10	65±10
			ブーム (2) 縮み	sec	35±10	65±10	80±10
			ブーム (3) 伸び	sec	50±10	30±10	45±10
			ブーム (3) 縮み	sec	60±10	50±10	55±10
			ブーム (4) 伸び	sec	—	—	20±5
洗浄装置	水ポンプ (配管洗浄用)		吐出圧力	MPa	—	—	—
			水圧	MPa	2.0	1.8	2.2
			飛距離	m	—	—	—
	空圧機		吐出圧力	MPa	—	—	—
			(油圧ポンプ回転数) (エンジン回転数) (作動油温度)	(min ⁻¹) (min ⁻¹) (℃)	(—) (—) (—)	(—) (—) (—)	(—) (—) (—)

☆印：新車基準値を表す（参考値）。

コンクリートポンプ車

PQ14-10/11/11A	PH14-52	PH14-60	PH75-25	PH80-26	PH80-26 (AB)	PH45A-15	PH55-18
スクイーズ	スクイーズ	スクイーズ	スクイーズ	スクイーズ	スクイーズ	スクイーズ	スクイーズ
70	70	70	75	80(50)	80(70)	45(32)	55(40)
2.5	2.5	2.5	2.5	1.6(2.5)	2.2(2.5)	1.8(2.5)	1.8(2.5)
＜7-1無し＞	21.4	29	24.2	26	26	15	18
81P000001～95P*****	81P000001～94P*****	85P010001～95P*****	89P000001～95P*****	95P000001～97P*****	96P000001～98P*****	10P000001～	06P070001～
検査基準値							
—	—	—	—	—	—	—	—
25±1	25±1	25±1	26±1	31±1 特記5)	28±1	36±1	36±1
(2200 ⁺⁰ ₋₅₀) (1930 ⁺⁰ ₋₅₀) (50±10)	(2200 ⁺⁰ ₋₅₀) (1930 ⁺⁰ ₋₅₀) (50±10)	(2200 ⁺⁰ ₋₅₀) (1930 ⁺⁰ ₋₅₀) (50±10)	(1700 ⁺⁰ ₋₅₀) (1490 ⁺⁰ ₋₅₀) (50±10)	(2100 ⁺⁰ ₋₅₀) (1840 ⁺⁰ ₋₅₀) (50±10)	(1850 ⁺⁰ ₋₅₀) (1620 ⁺⁰ ₋₅₀) (50±10)	(2000 ⁺⁰ ₋₅₀) (1890 ⁺⁰ ₋₅₀) (50±10)	(1890 ⁺⁰ ₋₅₀) (1890 ⁺⁰ ₋₅₀) (50±10)
36±3 20・チェーン中央	36±3 20・チェーン中央	41±3 20・チェーン中央	31±3 20・チェーン中央	40±3 20・チェーン中央	40±3 20・チェーン中央	28±3 20・チェーン中央	28±3 20・チェーン中央
(2200 ⁺⁰ ₋₅₀) (1930 ⁺⁰ ₋₅₀) (50±10)	(2200 ⁺⁰ ₋₅₀) (1930 ⁺⁰ ₋₅₀) (50±10)	(2200 ⁺⁰ ₋₅₀) (1930 ⁺⁰ ₋₅₀) (50±10)	(1700 ⁺⁰ ₋₅₀) (1490 ⁺⁰ ₋₅₀) (50±10)	(2100 ⁺⁰ ₋₅₀) (1840 ⁺⁰ ₋₅₀) (50±10)	(1850 ⁺⁰ ₋₅₀) (1620 ⁺⁰ ₋₅₀) (50±10)	(2000 ⁺⁰ ₋₅₀) (1890 ⁺⁰ ₋₅₀) (50±10)	(1890 ⁺⁰ ₋₅₀) (1890 ⁺⁰ ₋₅₀) (50±10)
0.083 (10分以内)	0.083 (10分以内)	0.083 (10分以内)	0.083 (10分以内)	0.083 (10分以内)	0.083 (10分以内)	0.083 (10分以内)	0.083 (10分以内)
0.007 (60)	0.007 (60)	0.007 (60)	0.007 (60)	0.007 (60)	0.007 (60)	0.007 (60)	0.007 (60)
5～10・ベ [°] 外中央	5～10・ベ [°] 外中央	5～10・ベ [°] 外中央	5～10・ベ [°] 外中央	＜電動モータ駆動＞	＜電動モータ駆動＞	＜電動モータ駆動＞	＜電動モータ駆動＞
—	0.5 以下	0.5 以下	0.5 以下	0.5 以下	0.5 以下	0.5 以下	0.5 以下
—	0.5 以下	0.5 以下	0.5 以下	0.5 以下	0.5 以下	0.5 以下	0.5 以下
—	0.5 以下	0.5 以下	0.5 以下	0.5 以下	0.5 以下	0.5 以下	0.5 以下
—	—	—	—	—	—	—	—
(—) (—) [—]	(10) (—) [図 No. 1]	(10) (—) [図 No. 1]	(10) (—) [図 No. 1]	(10) (—) [図 No. 1]	(10) (—) [図 No. 1]	(10) (—) [図 No. 1]	(10) (—) [図 No. 1]
—	60±10	85±10	85±10	45±10	45±10	45±10	65±10
—	65±10	60±10	80±10	60±10	60±10	60±10	65±10
—	85±10	170±10	100±10	60±10	60±10	40±10	65±10
—	85±10	185±10	125±10	70±10	70±10	55±10	75±10
—	50±10	105±10	105±10	45±10	45±10	35±10	45±10
—	65±10	120±10	150±10	95±10	95±10	45±10	60±10
—	—	—	60±10	25± 5	25± 5	20±10	30±10
—	—	—	85±10	40± 5	40± 5	30±10	35±10
—	—	—	—	—	—	—	—
—	—	—	—	—	—	—	—
(—) (—) [—]	(2200 ⁺⁰ ₋₅₀) (50±10) [図 No. 3]	(2200 ⁺⁰ ₋₅₀) (50±10) [図 No. 3]	(1700 ⁺⁰ ₋₅₀) (50±10) [図 No. 3]	(2100 ⁺⁰ ₋₅₀) (50±10) [図 No. 3]	(1850 ⁺⁰ ₋₅₀) (50±10) [図 No. 3]	(2000 ⁺⁰ ₋₅₀) (50±10) [図 No. 3]	(1890 ⁺⁰ ₋₅₀) (50±10) [図 No. 3]
—	—	—	—	—	—	—	—
2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5
—	—	—	—	—	—	—	—
—	—	—	—	—	—	—	—
(—) (—) (—)	(—) (—) (—)	(—) (—) (—)	(—) (—) (—)	(—) (—) (—)	(—) (—) (—)	(—) (—) (—)	(—) (—) (—)

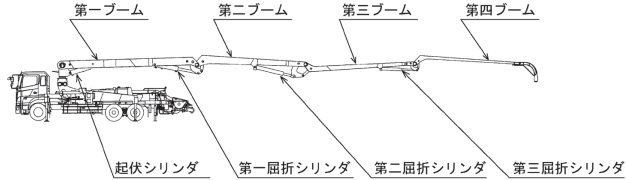
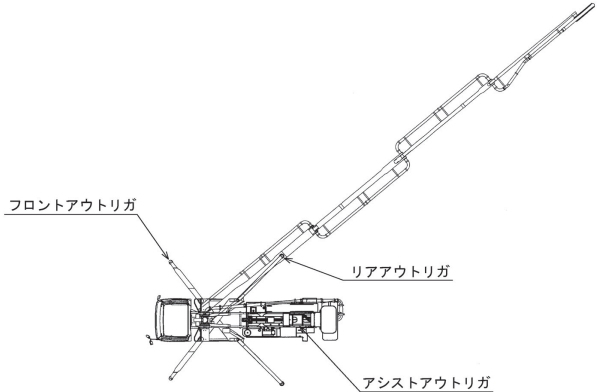
極東開発工業

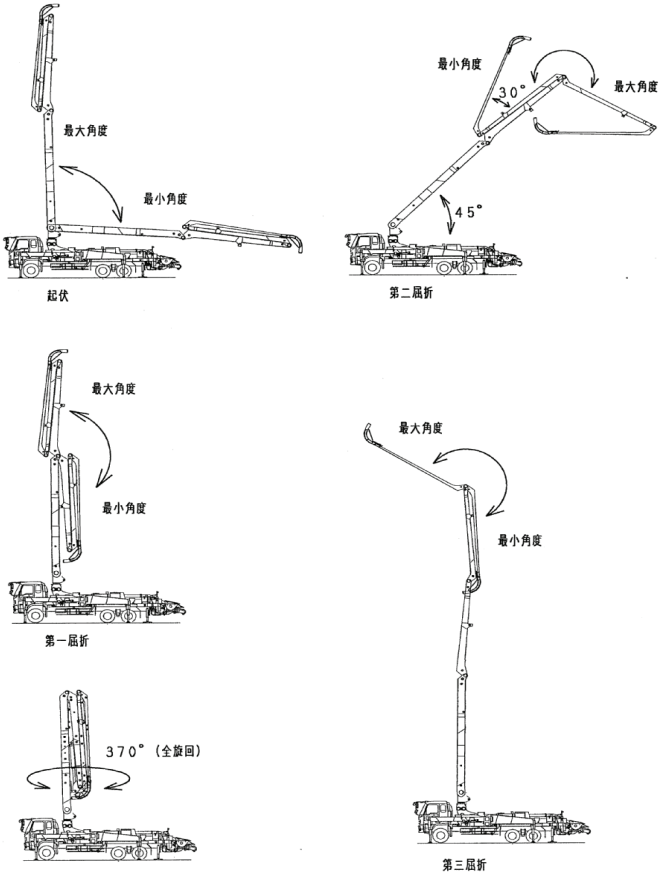
適用範囲		モデル名		PH11-50	PH65-18	PH65-19	PH65(A)-19A(B)
		吸吐弁型式	—	スキーズ	スキーズ	スキーズ	スキーズ
		最大吐出量	m ³ /h	55	65(55)	65(55)	65(55)
		最大吐出圧力	MPa	2.0	1.8(2.2)	1.8(2.2)	1.8(2.2)
		アーム最大地上高	m	16	18	19	19
適用号機				85P000001～92P*****	91P000001～99P*****	99P000001～99P*****	99P050001～
区分	検査箇所	検査項目(条件)	単位	検査基準値			
油圧装置	☆油圧機器 セット圧	主油ポンプ油圧	MPa	21.1±1	25.5±1	26.0±1	26.0±1
		弁シリンダ油圧	MPa	—	—	—	—
		かくはんモータ油圧	MPa	7.4±1	6.9±1	8.0±1	8.0±1
		ブーム油圧	MPa	20.6±1	27.5±1	27.5±1	27.5±1
		ACCガス封入圧力	MPa	—	—	—	—
		(油圧ポンプ回転数) (エンジン回転数) (作動油温度)	(min ⁻¹) (min ⁻¹) (℃)	(1900 ⁺⁰ ₋₅₀) (1850 ⁺⁰ ₋₅₀) (50±10)	(1800 ⁺⁰ ₋₅₀) (1820 ⁺⁰ ₋₅₀) (50±10)	(1530 ⁺⁰ ₋₅₀) (1860 ⁺⁰ ₋₅₀) (50±10)	(1530 ⁺⁰ ₋₅₀) (ｼｬｼで異なる) (50±10)
車体・安全装置	☆旋回ベアリング 取付けボルトの締付け	外輪取付ボルトの締付トルク	N・m	294±9.8	294±9.8	325.6±9.8	325.6±9.8
		内輪取付ボルトの締付トルク	N・m	294±9.8	294±9.8	325.6±9.8	325.6±9.8
		取付ボルトの交換基準	年	特記 4)	特記 4)	特記 4)	特記 4)
	☆旋回作動速度	旋回速度	sec	125±10	100±10	75±10	75±10
		(旋回作動角度) (油圧ポンプ回転数) (エンジン回転数) (作動油温度)	(度) (min ⁻¹) (min ⁻¹) (℃)	(360・全旋回) (1900 ⁺⁰ ₋₅₀) (1850 ⁺⁰ ₋₅₀) (50±10)	(360・全旋回) (1800 ⁺⁰ ₋₅₀) (1820 ⁺⁰ ₋₅₀) (50±10)	(360・全旋回) (1530 ⁺⁰ ₋₅₀) (1860 ⁺⁰ ₋₅₀) (50±10)	(360・全旋回) (1530 ⁺⁰ ₋₅₀) (ｼｬｼで異なる) (50±10)
	アウトリガー 自然伸縮量	各垂直シリンダ	mm	0.5 以下	0.5 以下	0.5 以下	0.5 以下
		(測定時間) (作業装置姿勢)	min [図面 No.]	(10) [図 No.2]	(10) [図 No.2]	(10) [図 No.2]	(10) [図 No.2]
特記事項				1)ボンプ圧力の測定は特殊治具を必要とし危険が伴うので、ホーラに異常の有無を確認し異常が無ければ省略する。 2)可変式油圧ボンプの場合は斜板を最大に切り換えた状態とする。			
				3)シリンダ耐圧テスト時は先端荷重は無しとする。 4)締付トルクを下回る緩みが1本でもあればそのベアリング輪(外輪 又は 内輪)のボルト全数交換。			
				5)ベネルの非常停止ボタンの作動確認。(PH65-18)			

☆印：新車基準値を表す（参考値）。

コンクリートポンプ車

PQ14-10/11/11A	PH14-52	PH14-60	PH75-25	PH80-26	PH80-26(AB)	PH45A-15	PH55-18
スキーズ	スキーズ	スキーズ	スキーズ	スキーズ	スキーズ	スキーズ	スキーズ
70	70	70	75	80(50)	80(70)	45(32)	55(40)
2.5	2.5	2.5	2.5	1.6(2.5)	2.2(2.5)	1.8(2.5)	1.8(2.5)
0	21.4	29	24.2	26	26	15	18
81P000001～95P*****	81P000001～94P*****	85P010001～95P*****	89P000001～95P*****	96P000001～97P*****	96P000001～08P*****	10P000001～	06P070001～
検査基準値							
27.4±1	27.4±1	27.4±1	27.4±1	28.0±0.5	28.0±0.5	25.0±1	25.0±1
—	—	—	—	—	—	—	—
6.9±1	6.9±1	6.9±1	8.8±1	10.8±1	10.8±1	8.0±1	8.0±1
20.6±1	20.6±1	27.5±1	27.5±1	27.5±1	27.5±1	27.5±1	27.5±1
—	—	—	—	—	—	—	—
(2200 ⁺⁰ ₋₅₀) (1930 ⁺⁰ ₋₅₀) (50±10)	(2200 ⁺⁰ ₋₅₀) (1930 ⁺⁰ ₋₅₀) (50±10)	(2200 ⁺⁰ ₋₅₀) (1930 ⁺⁰ ₋₅₀) (50±10)	(1700 ⁺⁰ ₋₅₀) (1490 ⁺⁰ ₋₅₀) (50±10)	(2100 ⁺⁰ ₋₅₀) (1840 ⁺⁰ ₋₅₀) (50±10)	(1850 ⁺⁰ ₋₅₀) (1620 ⁺⁰ ₋₅₀) (50±10)	(2000 ⁺⁰ ₋₅₀) (ｼｬｼで異なる) (50±10)	(1890 ⁺⁰ ₋₅₀) (ｼｬｼで異なる) (50±10)
—	294±9.8	765±9.8	294±9.8	294±9.8	294±9.8	325.6±9.8	325.6±9.8
—	294±9.8	765±9.8	294±9.8	294±9.8	294±9.8	325.6±9.8	325.6±9.8
—	特記 4)	特記 4)	特記 4)	特記 4)	特記 4)	特記 4)	特記 4)
—	110±10	205±10	155±10	165±15	165±15	90±10	90±10
(—)	(360・全旋回)	(360・全旋回)	(360・全旋回)	(360・全旋回)	(360・全旋回)	(360・全旋回)	(360・全旋回)
(—)	(2200 ⁺⁰ ₋₅₀)	(2200 ⁺⁰ ₋₅₀)	(1700 ⁺⁰ ₋₅₀)	(2100 ⁺⁰ ₋₅₀)	(1850 ⁺⁰ ₋₅₀)	(2000 ⁺⁰ ₋₅₀)	(1890 ⁺⁰ ₋₅₀)
(—)	(1930 ⁺⁰ ₋₅₀)	(1930 ⁺⁰ ₋₅₀)	(1490 ⁺⁰ ₋₅₀)	(1840 ⁺⁰ ₋₅₀)	(1620 ⁺⁰ ₋₅₀)	(ｼｬｼで異なる)	(ｼｬｼで異なる)
(—)	(50±10)	(50±10)	(50±10)	(50±10)	(50±10)	(50±10)	(50±10)
—	0.5 以下	0.5 以下	0.5 以下	0.5 以下	0.5 以下	0.5 以下	0.5 以下
(—) [—]	(10) [図 No.2]	(10) [図 No.2]	(10) [図 No.2]	(10) [図 No.2]	(10) [図 No.2]	(10) [図 No.2]	(10) [図 No.2]
1)ボンプ圧力の測定は特殊治具を必要とし危険が伴うので、ホーラに異常の有無を確認して異常が無ければ省略する。 2)可変式油圧ボンプの場合は斜板を最大に切り換えた状態とする。							
	3)シリンダ耐圧テスト時は先端荷重は無しとする。 4)締付トルクを下回る緩みが1本でもあればそのベアリング輪(外輪 又は 内輪)のボルト全数交換。						
		5)キャブ上、誤動作防止装置の点検。(PH14-60)		5)96P04 以前は34±1	5)フーム制振装置 ACC ガス封入圧力 14MPa(フーム制振装置搭載車のみ)		

項目	測定方法	計測姿勢
ブームシリンダ 自然降下	アウトリガを最大に張り出し、ブームをまっすぐに伸ばした状態で保持する。各ブームシリンダにダイヤルゲージを取り付け、10分間の自然降下量を計測する。 ブーム先端は先端ホースのみとし、過重は加えない。	図-1 ブームシリンダ自然降下計測姿勢 (下図参照)
		
アウトリガシリンダ 自然降下	ブームを水平に伸ばし、測定対象のアウトリガの真上に置く。アウトリガにダイヤルゲージを取り付け、10分間の自然降下量を計測する。	図-2 アウトリガシリンダ自然降下計測姿勢
		

項目	測定方法	計測姿勢
ブーム旋回 作動速度	アウトリガを最大に張り出し、各ブームシリンダの全ストロークの作動時間をストップウォッチで計測する。	図-3 ブーム作動速度計測姿勢 (下図参照)
		

項目	測定方法	計測姿勢
ブームシリンダ 自然降下	アウトリガを最大に張り出し、ブームをまっすぐに伸ばした状態で保持する。各ブームシリンダにダイヤルゲージを取り付け、10分間の自然降下量を計測する。 ブーム先端は先端ホースのみとし、過重は加えない。	図-4 ブームシリンダ自然降下計測姿勢 (下図参照)
アウトリガシリンダ 自然降下	ブームを水平に伸ばし、測定対象のアウトリガの真上に置く。アウトリガにダイヤルゲージを取り付け、10分間の自然降下量を計測する。	図-5 アウトリガシリンダ自然降下計測姿勢 (下図参照)

項目	測定方法	計測姿勢
ブーム旋回 作動速度	アウトリガを最大に張り出し、各ブームシリンダの全ストロークの作動時間をストップウォッチで計測する。	図-6 ブーム作動速度計測姿勢 (下図参照)